



Title	住環境デザインにおけるエスノメソドロジーに関する基礎的研究
Author(s)	森, 傑
Citation	大阪大学, 2001, 博士論文
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.11501/3184457
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名	森 傑 <small>もり すぐる</small>
博士の専攻分野の名称	博士(工学)
学位記番号	第 16263 号
学位授与年月日	平成13年3月23日
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当 工学研究科建築工学専攻
学位論文名	住環境デザインにおけるエスノメソドロジーに関する基礎的研究
論文審査委員	(主査) 教授 舟橋 國男 (副査) 教授 柏原 士郎 教授 吉田 勝行 助教授 鈴木 毅

論文内容の要旨

本研究は、建築・都市環境および生活の質の改善を目指すデザインの実態、ならびにそれと密接に結びついた環境形成活動に対する社会的認識について、エスノメソドロジーの視点のもとに、住環境デザインにおける「Ethno-design-method (人々のデザインの仕方)」という事象に注目し、住環境デザインにおけるコミュニケーション研究の重要性を示すことを目的としている。

第1章では、本研究の目的・意義ならびに関連分野における既往研究の検討を行って、本研究の位置づけを明らかにしている。

第2章では、エスノメソドロジーに関する方法論的考察ならびに建築計画学との関連を検討し、今後の建築計画学に求められる基本的構造が、実在論的方法による研究の客観性保証の観点から、どのような哲学および知的態度によって生活世界の現実に接近するかへの、研究通念の転換であることを論証している。

第3章では、人々が、住宅やその生産行為について当然の客体的現象として捉えている社会的通念や観念の現状を抽出し、その社会的構造感が生成される広義の生産行為構造の詳細な把握から、“注文すること”の意味や住宅の質に関する人々の認識の欠落、ならびに住宅供給サイドの注文-受注生産に対するスタンスの問題性を指摘している。

第4章では、注文住宅の設計打ち合わせにおける「Ethno-design-method」について、建築主と専門家の役割関係の考察から、設計打ち合わせに特有の会話のシーケンス構造として、a) 否定的反応における順接、b) 情報の収集と整理、c) 潜在的完結点以外での割り込みと応答、d) 質問的提案とデザインの協働的産出、e) 情報の抑制、f) 断言によるトピック・コントロール、g) 沈黙と推論、の実践を抽出している。

第5章では、個別具体的な住環境デザイン活動事例の内容とその成果までを含めた詳細な考察から、設計過程における特定の場面ではどのような課題が焦点化されており、具体的な「Ethno-design-method」がどのようなかたちで適切に行われたのか、あるいは支障になったのかを明らかにしている。

第6章では、各章をまとめ、住環境デザインにおける建築主や専門家の役割関係が、さらには、人々が当然の客体的現象として捉えている社会的通念や観念が、その場その時の人々の協働的实践によって構成され、住環境デザインの内容もまた、会話という相互作用形式に内在している慣習的規則や制約を通して展開されていることを結論づけている。これらに基づいて、住環境デザイン研究におけるエスノメソドロジーの意義と今後の研究課題を示している。

論文審査の結果の要旨

人々の生活の基盤をなす住環境の計画・設計は、多くの関係者によって行われる協同作業であるが、特に、猶多くのシェアを占めているいわゆる注文住宅は、非専門家である発注者と設計者および工事関係者との相互干渉過程、すなわち広義の住生産行為によって産み出される。今日の都市居住環境の水準と質はこの住生産行為の過程と結果の累積であり、その実態の解明は重要な意義を持つ。本論文は、建築・都市環境ならびに生活の質の改善を目指す広義のデザイン、環境形成活動に対する社会的通念等の実態について、「Ethno-design-method」に注目する立場から、エスノメソドロロジーの視点を適用し、コミュニケーション研究の重要性を示すことを目的としている。

得られた主な成果は以下の通りである。

- (1)住環境デザイン論研究へのエスノメソドロロジー適用が全く新規な試みであるところから、その方法論的考察ならびに既往建築計画学との関連を検討し、適用の意義と可能性を明らかにするとともに、今後の建築計画学に求められる基本的構造が、生活世界の現実接近する方法への転換であることを論証している。
- (2)注文住宅の設計・施工過程に関わる多くの関係者への綿密な調査に基づき、その社会的通念と構造的実態、ならびに“注文すること”の意味や住宅の質に関する人々の認識の欠落を明らかにし、それ故に、得られた結果が生産行為の内容よりも過程でしか評価され得ないことを示している。
- (3)注文住宅の設計過程における注文者と設計者との関係について、打ち合わせ交渉現場における対話ならびに用いられた各種資料等の詳細な分析に基づいて、非専門家と専門家との役割関係の非対称性を明らかにし、医療診断場面や教育指導場面にみられる当事者間の役割関係とは異なる、住宅デザイン過程に固有の7つの特質を抽出している。
- (4)注文住宅の設計過程における注文者と設計者との関係において、特定の交渉場面で焦点化される課題と、具体的な「Ethno-design-method」の実像を明らかにし、それがどのようなかたちで適切に行われたか、あるいは支障になったかを示している。
- (5)その結果、注文者・設計者いずれもが、交渉の過程を通じて新たな認識や自己目標を産み出すよりもむしろそれを制限する可能性があり、従って、濃密な交渉・参加過程を通じた関係者間の相互理解による課題解決あるいは共通認識に基づく設計計画の実行可能性という、自明性こそがまず疑われなければならないことを示している。
- (6)上述から、住環境デザインにおける建築主・専門家の役割関係や人々が当然視する社会的通念が、その場その時の人々の協働的实践によって構成され、対話という相互作用形式に内在している慣習的規則や制約を通して展開されていることを論証している。
- (7)住環境デザイン研究におけるエスノメソドロロジー適用の意義と可能性を明らかにし、今後の研究課題を示している。

以上のごとく、本論文は、住環境デザイン研究における全く新しい視点としてのエスノメソドロロジーに注目し、注文住宅の設計・生産過程に関わる人々の構造的関係を明らかにした上で、専門家・非専門家の役割関係に見られる固有の特徴を考察して、住環境デザインの新しい理論的基礎付けと展開の方向を展望しており、建築工学、特に、建築計画学の発展に寄与するところ大である。よって本論文は博士論文として価値あるものと認める。